

電気核崩落反応による地震の理論

A Nuclear Collapse Theory for Earthquake

松本 高明[1]

Taka-aki Matsumoto[1]

[1] 北大、工、量エネ

[1] Dept. Quantum Energy, Hokkaido Univ.

最近、著者により核崩落反応による微小な爆発現象が水中火花放電実験中に発見された(1)。現象は宇宙で生起する重力崩壊と区別するために、電気核崩落反応(Electro-Nuclear Collapse; ENC)と命名された。電気核崩落反応はイトン化クラスターと呼ばれる特殊な原子または分子クラスターが生成されて起こる。イトン化クラスター(Itonic Cluster)は直径が約 100 μm の大きさを数々の奇妙な性質が自然現象で観察される球電(Ball Lightning; BL)と極めて類似しているために、別名マイクロ球電(micro Ball Lightning)と呼ばれている。

電気核崩落反応は放電ばかりでなく、その他の技術においても極く簡単に起こる。また 2000 年の有珠山噴火や三宅島諸島神津島地震においてもマイクロ球電やその電気核崩落反応が実際観察された(2)。

本論文では電気核崩落反応に基づいた地震の理論について述べる。理論は地震が次の 3 段階の過程により起こるとする：(1) 長期間において地中に蓄積された多数のマイクロ球電の電気核崩落反応が連鎖して起こる、(2) マイクロ球電の電気核崩落反応により生成された高温・高圧ガスが発生して多くの空洞が成長する、そして(3) 空洞ガスの温度・圧力の減少により空洞の機械的な崩壊が連鎖して起こる。最後の段階では空洞上部にある岩盤が崩落するので実際の地震振動になる。また最初の段階では多数のマイクロ球電が空中に放出されて、異常な前兆現象の原因となる。したがって、マイクロ球電を観察することによって、的確な地震予知ができる可能性がある。